

風評被害の払拭訴え

東京青年会
議所が主催

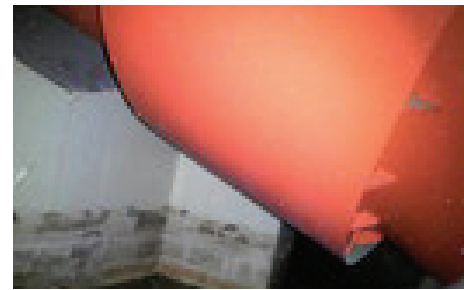
福島支援で即売会も

「東京から発信する被災地復興への道」——東京青年会が主催する被災地復興支援イベントが開催された。会場前広場では、福島県産のコシヒカリ米を利用したおむすび三万千個を敷き詰めたアートフロ



め、世界最大のギネス記録をねらうアートフロジェクトや、東北被災地の特産物即売なども行われた。おむすびアートは、慶應義塾大学と福島大学の学生らの協力で行われたもので、中央にNHK大河ドラマの主役「新島八重」と鶴ヶ城、周辺には、全国都道府県のシンボルを配したデザインで、全体が縦十一m、横十・五mのボードに、色の異なるおむすびを並べ、日本全国と福島県を「結ぶ」というメッセージを込めている(写真)。完成後、おむすびは来場者に配られ、福島県産農産物の風評被害払拭も訴えかけた。

の中で、東京都から被災地支援のため福島に赴く飯田一哉氏(都被災地支援福島県事務所)は、観光資源や農産物に対する風評被害の現状を述べた上で、農産物の消費回復が原子力災害からの復旧につながるとして、「消費者が福島について正しい知識を持つべき」と訴えた。



ベント管に漏水発見せず 福島第一2号 4 足ロボットを活用

東京電力は十四日、過酷事故を起こした福島第一原子力発電所2号機の格納容器下部サブプレッショント管(II写真)の周辺部の漏水検査を、四足歩行ロボットを使って行った結果、周辺に漏水は確認されなかった、と発表した。

ル測定・検査エリアや半導体・IC・センサー、モニタ／画像処理、音波技術等の「医療用エレクトロニクスエリア」などが設置される。入場料は当日二千円。事前登録・招待状があれば無料となる。詳細はホームページ(<http://www.medtecjapan.com>)参照。

アジア最大の医療機器展示会

4月、東京で

溶接管理技術者研修の募集

溶接協会

福島事故受け原子力政策を大幅に変更した中国 国産化を減速し安全強化に軸足

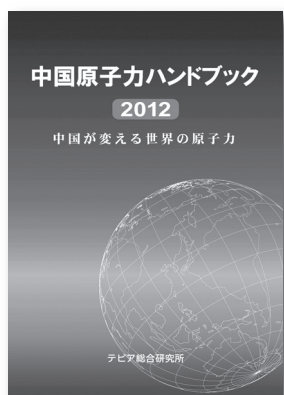
中国原子力ハンドブック 2012 —中国が変える世界の原子力—

- ☐ 原子力安全規画、ストレステスト報告、福島事故後の技術改良要求
- ☐ 各種原子力関連国家規画、地方の計画
- ☐ 原子力発電プロジェクトの実態(建設費、国産化、資金調達、設計・製造許可、調達・建設管理)
- ☐ 第3世代PWR、高速炉、高温ガス炉、トリウム熔融塩炉、進行波炉
- ☐ 主要事業者の海外展開戦略
- ☐ 原子力開発の歴史
- ☐ 「放射性廃棄物安全管理条例」等関連法規を全訳

編集：テピア総合研究所、A4版・560ページ
値段：28万円(税・送料込)



日本テピア株式会社 〒105-6031 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー31F
TEL (03) 6721-5505 FAX (03) -6721-5506 <http://www.tepia.co.jp>



大衆週刊誌も原子力に注目

週刊ポストや写真週刊誌 FLASH

原産新聞の専門紙報道ぶりを紹介



写真週刊誌FLASH(2月12日発売号)「光文社」での専門紙三十紙の安倍政権の経済政策アベノミクス評価(自民党の原子力政策など)「写真

左端)に引き続き、週刊ポスト(3月18日発売号)「小学館」に「面白くてためになる業界紙の世界」として、十二紙の中に当原子力産業新聞(II

を、一般紙とは異なる専門的な角度から、各業界の専門紙誌から嗅ぎとるうとする試みが広がったものとみられる。原子力産業新聞の編集方針や、福島事故の前後のニュース内容の変化、国際動向、読者からの反応などが質問された。

読者が原子力業界ではない一般大衆を対象とする週刊誌では、取材記者もまったくの専門外であり、できるだけ分かりやすい言葉を使ったつもりでも、時間的制約もあって、編集段階でかなりの調整が入り、必ずしも当方の主旨が表現されなかったのは残念。ただ今回は、一般の大

衆読者を対象とする週刊誌にエネルギーの重要性や原子力の必要性を地道に報道している「お便り」専門紙があることを、知らしめたというところで、一応の成果があったものと解釈すべきか。それにしても、取材する側から取材される側に回っての反省や、苦勞の一端を感じた経験だった。

また現在、四月四日放送予定の東京MXテレビ「ニッポン☆タンデー(9チャンネル)21〜22の生放送では、業界紙とは何か(アイスクリーム業界紙が主らしい)を取り上げる予定で、原産新聞の送付依頼もあり、最新号を送付した。(き)

女性歌手AIが震災支援活動

ネットで紹介

ソウル系の女性歌手として人気のあるAIが、福島を始めとする震災被災地復興支援のために、行っているチャリティイベントや地元の中生との交流などの模様をウェブサイト(<http://www.ai-voice.co.jp>)で公開している。彼女が二月にリリースした曲名にちなむ「AIサミット2013 VOICE」と題するこのプロジェクトは、子どもたちの復興への想い、著名アーティストからの応援メッセージなど、希望に向けた「声」を届けるもので、特に、二月八日に福島市と伊達市の中生

たちとの間で行われた復興アクションプラン熟議の模様が見所だ。AIは、復興を描いたドキュメンタリー映画への楽曲提供の他、十四日には大熊中学校(立地が避難区域のため津若松市に移転)の卒業式でのサプライズライブを開催するなど、精力的に活動している。

原産新聞の記事検索



<http://www.jaif.or.jp/>

原産協会が発行する「原子力産業新聞」では、1999年11月からの記事データベースから即座に目的の記事を検索できるサービスを、原産協会会員、原産新聞購読者を対象に行っています。何回利用しても無料です。

また、一般の方にも2006年度からさかのぼって1955年9月25日の創刊号までは、紙面のPDF版が当協会HP「電子図書館」からご覧いただけます。PDF版のキーワード検索も年度単位でご利用いただけるようになりました。

- ☐ 対象：原産会員、原産新聞購読者
- ご利用にはユーザー名(ID)、パスワードが必要です。
- 電子メールで購読者コード、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。折り返し、IDとパスワードを返送します。
- ☐ お申込み： information@jaif.or.jp
- ☐ お問合せ： 一般社団法人 日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103)

【著作権】一般社団法人 日本原子力産業協会

無料

